

## 中小企業の業況は、大幅な低下傾向にある。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど令和3年1月～令和3年3月期実績と令和3年4～6月期見通しについての調査結果（回答数86社、回答率86%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期の▲37%から▲45%とマイナス幅が拡大した。業種別にみると、製造業は▲30%から▲42%と低下しているが、来期は8%と大幅に上昇する見通しである。建設業は▲23%から8%と大幅に上昇しているが、来期は▲8%と低下する見通しである。小売業は▲46%から▲48%とわずかに低下しているが、来期は▲39%とマイナス幅が縮小する見通しである。サービス業は▲33%から▲61%と大幅に低下しており、来期については▲48%とマイナス幅が縮小する見通しである。

今回調査では、前回調査と比較して建設業を除くすべての業種で低下傾向が見られた。

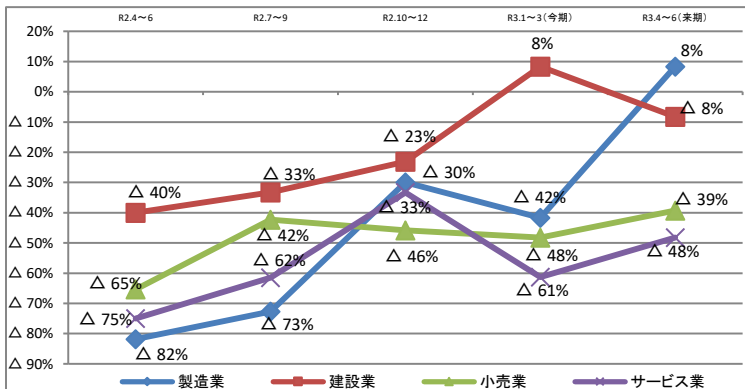
新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の14%、来期設備投資を実施予定の企業は14%であった。

経営上の問題点については、いずれの業種でも官民の需要の停滞が挙げられた。また、製造業、小売業、サービス業で利用者や消費者ニーズの変化への対応が上位に入り、サービス業では新型コロナウイルス感染症の影響としてその他が挙がるなど、依然として新型コロナウイルス感染症の影響が見られる。

### ◆業況DI値（今期の状況）

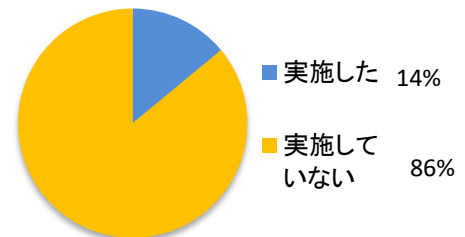
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△45%	→	△48%	→	△24%	→	12%	→	△51%	→	△12%	→
製造業	△42%	→	△42%	→	△33%	→	33%	→	△33%	→	△9%	→
建設業	8%	→	0%	→	0%	→	42%	→	△17%	→	△25%	→
小売業	△48%	→	△45%	→	△29%	→	△7%	→	△63%	→	△7%	→
サービス業	△61%	→	△67%	→	△25%	→	3%	→	△58%	→	△10%	→

### ◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

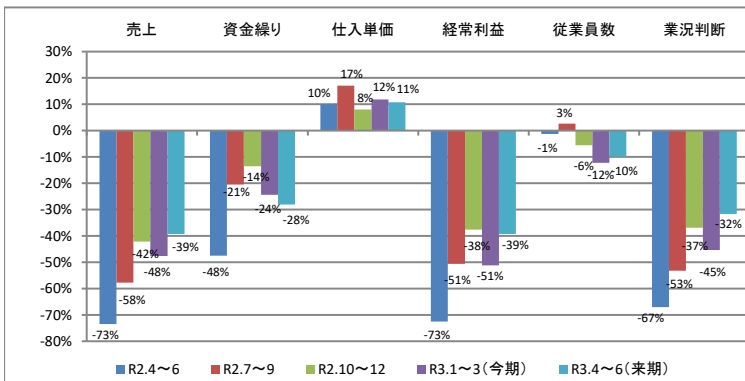


### ◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

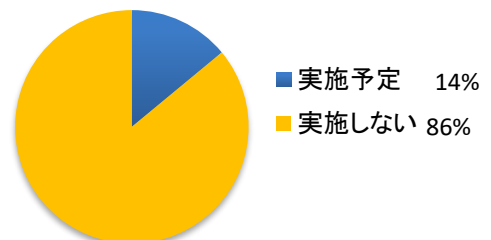
#### 【今期設備投資】



### ◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



#### 【来期設備投資計画】



### ◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 25.0%	官公需要の停滞 18.2%	需要の停滞 27.5%	利用者ニーズの変化への対応 22.4%
2位	生産設備の不足・老朽化 25.0%	熟練技術者の確保難 15.2%	消費者ニーズの変化への対応 14.5%	需要の停滞 19.7%
3位	製品ニーズの変化への対応 16.7%	民間需要の停滞 15.2%	購買力の他地域への流出 11.6%	その他 14.1%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。